

(活動報告書様式)

団体名	山形大学 SCITA センター学生スタッフ		
事業名	山形県に科学の楽しさを！		
助成事業区分	協働助成事業（一般型） 【県政課題：科学との触れ合いの場の提供による子どもたちの「科学する心」の醸成】		
団体の 所在市町村	山形市	事業費	384,344 円
		うち助成金額	384,344 円



SCITA 秋の科学実験まつりでの理科読ショーの様子



山形県産業科学館でのイベントの様子

■ 事業目的

山形県で問題となっている人材不足の中で、特に科学技術分野を担う人材を育成するため、山形県内の各地で科学イベントの開催出展を行う。これにより、未来ある子供たちの科学への興味関心を育むとともに、親なども科学について触れ、子供たちが科学に触れ合いやすい環境づくりへの一助とする。

また、地域のイベントで科学体験教室を実施することにより、地域活性化にもつながり、SCITA センターの知名度を上げ、科学普及の活性化を図る。

■ 実施内容

① SCITA 秋の科学実験まつり

9月23日イオンモール天童2階イオンホールにて実施。時間ごとに人数を制限しながら開催。空気に関する自作の科学絵本の読み聞かせとその内容に沿った実験ショーからなる「理科読」を山形大学理学部サイエンスコミュニケータープログラムの学生と共同で実施した。また、実験などの体験ブースも合わせて行った。事前予約、当日申込により、参加者を集めた。

② 山形県産業科学館での科学体験イベント

10月24日、12月12日に山形県産業科学館にて開催。今まで行ったことがない授業形式での実験を行った。普段、実験原理をまとめたプリントを見てもらい説明を行っているところを、スタッフが参加者の前に立ち、スクリーンにスライドを映しながら説明する形にした。参加者は完全事前申込制。

■ 事業の成果及び今後の展望

・事業の成果

今年度は未就学児のイベント参加も多くみられたため、学校教育が始まる前の子どもにとって貴重な科学体験の場を届けられた。このことで、山形県における科学技術分野を担う人材の育成に貢献できたと考える。

SCITA 秋の科学実験まつりでは、理科読を中心にイベントを実施し、その内容に関連した科学展示を行うなどの工夫をすることで、参加者に学びをより深めてもらえた。来場者数は209人だった。

山形県産業科学館での科学

体験イベントでは、授業形式で説明を行ったため、実験の原理や手順がわかりやすかったという感想をいただいた。参加者はそれぞれ48人ずつだった。

・今後の展望

来年度は、新型コロナウイルス感染症拡大前に実施していた児童会館でのイベントや夏休みの自由研究の指導などの再開、新規イベントの実施を予定している。また、今年度の活動で力を入れていた新実験開発を続け、安全な実験の手順、原理説明のまとめをしていく。完成した実験は、来年度のイベントで実施する。最近では団体の知名度も上がっており、何度もイベントに足を運んでくれる方も多くなってきたため、実験内容を豊富にすることで、いつでも新しい科学体験をしてもらえるようにする。

SCITA センター学生スタッフ

Twitter や Instagram も行っています！

TEL:023-628-4506

HP: <http://www.yamagata-u.ac.jp/scita/>